
赤 潮 注 意 報 (ヘテロシグマ)

鹿児島県水産技術開発センター
平成 17 年 2 月 28 日

鹿児島湾 No. 1

[1] 2月25, 28日の調査結果

(1) 赤潮生物の出現状況

鹿児島湾湾奥部牛根沖でヘテロシグマ アカシオ (Heterosigma akashiwo) が増加傾向にあります。

2月25日の水技センターによる検鏡で、湾奥部牛根境沖表層で 300cells/ml, 同辺田沖で 175cells/ml 確認されたほか、28日の牛根漁協調査によると、牛根沖表層で最高 70 cells/ml 確認されました。

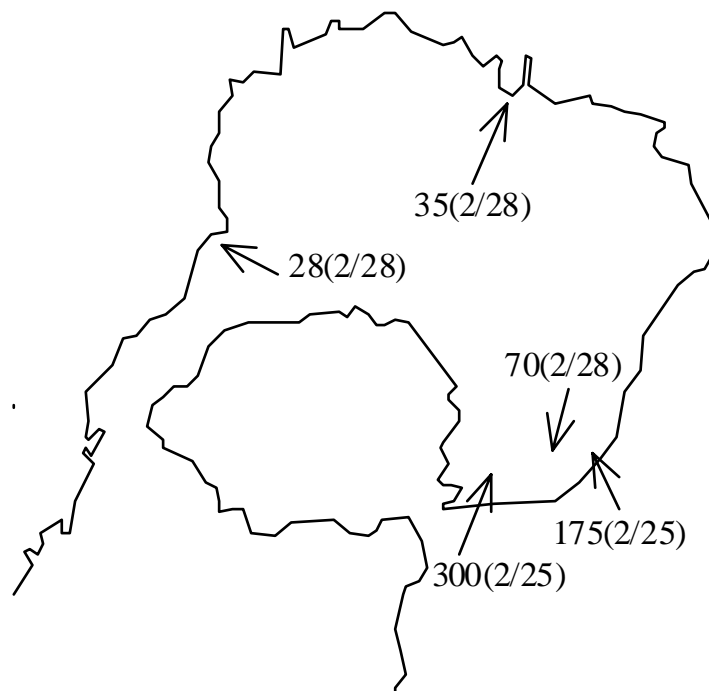
[2] 今後の赤潮発生の予想

今回確認されたヘテロシグマ アカシオ (以下ヘテロシグマ) は細胞活性が非常に高いうえ、他の競合プランクトンが非常に少ないことなどから今後も増殖を続ける可能性があります。

本種はラフィド藻に属する長さ15 μ m前後の種で、適水温(15~25 $^{\circ}$ C), 適塩分ともに広く、鹿児島湾では過去に3~4月に赤潮を形成したことがあります(平成13年には鹿児島湾で大規模赤潮を形成[漁業被害有])。

また、本種の魚毒性はカンパチで3万 cells/ml 前後、ブリで10万 cells/ml 前後で、鉛直移動を行い午前9~12時前後に最も表層に集積し、15時以降は水深15m付近まで分布がばらける習性を持っています。

今後は風や潮流等による細胞数の急激な増加、養殖魚の状態等に対する十分な注意が必要です。



ヘテロシグマ アカシオ表層細胞数 (cells/ml)
[現在の表層水温: 日中で15 $^{\circ}$ C 台]

赤潮情報: <http://kagoshima.suigi.jp/akashio/i/index.shtml>

赤潮図鑑: <http://kagoshima.suigi.jp/akashio/HTML/index.shtml>